

## 2024年9月22日(日) 第二礼拝「罪の転嫁」レビ記1章8節

レビ記は旧約聖書の福音書にあたります。レビ記にはいけにえを捧げる規定が書かれてありますが、牛のいけにえの場合、傷のない雄牛でなければなりません。その雄牛の頭に手を置いて罪を牛に移した後(罪の転嫁)、雄牛はほふられ、全焼にされました。人が自分の罪の結果で死ぬ代わりに、いけにえが死んだのです。これが福音の核心であります。

第一番目、アダムの罪です。アダムは墮落した天使による罪の誘惑を受け、罪を犯してしまいました。「ちょうどひとりの人(アダム)によって罪が世界に入り、罪によって死が入りこうして死が全人類に広がった…」(ローマ5:12) 最初の間であり、全人類の代表でもあるアダムと神様は契約を結びました(創世記2:16、17)。しかし、アダムの罪の結果、アダムの子孫は全員、罪ある者として生まれ、罪の報酬である死を受け継ぎました。「ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。」(詩篇51:5) 私たちが罪を犯したから罪人なのではなく、最初から罪人として生まれているので罪を犯すのです。私たちにはアダムから受け継いだ罪(原罪)があり、義人は一人もいません。

第二番目、罪の転嫁です。旧約時代は、傷のない動物に罪を転嫁しましたが、これは一時的なものでした。しかし、神様であり罪のないイエス様が永久的な罪の転嫁を受けてくださいました。傷のない雄牛のいけにえとして、イエス様はマリアの子宮を通して御霊によって生まれて来られ、十字架を通して私たちの過去、現在、未来の全ての罪を背負ってくださり、代わりに刑罰を受けてくださいました。イエス様自ら罪となられ、ご自分の義を私たちに転嫁してくださいました。これを聖書では「救い」と言い、天国に入ったことを意味します。今あるどんな哲学や宗教をもってしても、これに代わる罪の転嫁はありません。

第三番目、罪の告白です。いけにえの頭の上に手を置くことは罪の告白を意味します。「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」(Iヨハネ1:9) 罪を告白するなら、その罪はイエス様に移され、私たちはイエス様の義を受け、その行き先は地獄から天国となります。

神様は、罪赦された私たちを天のところに座らせてくださっていますが、天国は人の目で見えるようなものではありません。「神の国は…『そら、ここにある』とか、『あそこにある』とか言えるようなものではありません。…神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」(ルカ17:20~21) 天国には父、御子、御霊がおられ、天軍天使や信仰の先輩たちが取り囲んでいます。私たちがその天国のただ中で生活しているということを忘れてはいけません。

放蕩息子が父の家に帰った時、父は息子を抱き、口づけをしました。罪を告白した息子に、父は指輪をはめさせ、靴をはかせました。息子は子と認められたのです。同様に私たちはイエス様を通して神の子とされ、天国(父の家)に入りました。今私たちに天国が臨んでいます。過去、現在、未来の全ての罪が赦され、永遠のいのちを与えられた私たちは、天国にふさわしい正しい良心をもって神様の御前で謙遜に歩んでいきましょう。アーメン！